

3－2 宮城県沖の地震活動パターン変化（その9）

Current Seismicity Pattern Change around Off-Miyagi Prefecture (Part 9)

防災科学技術研究所

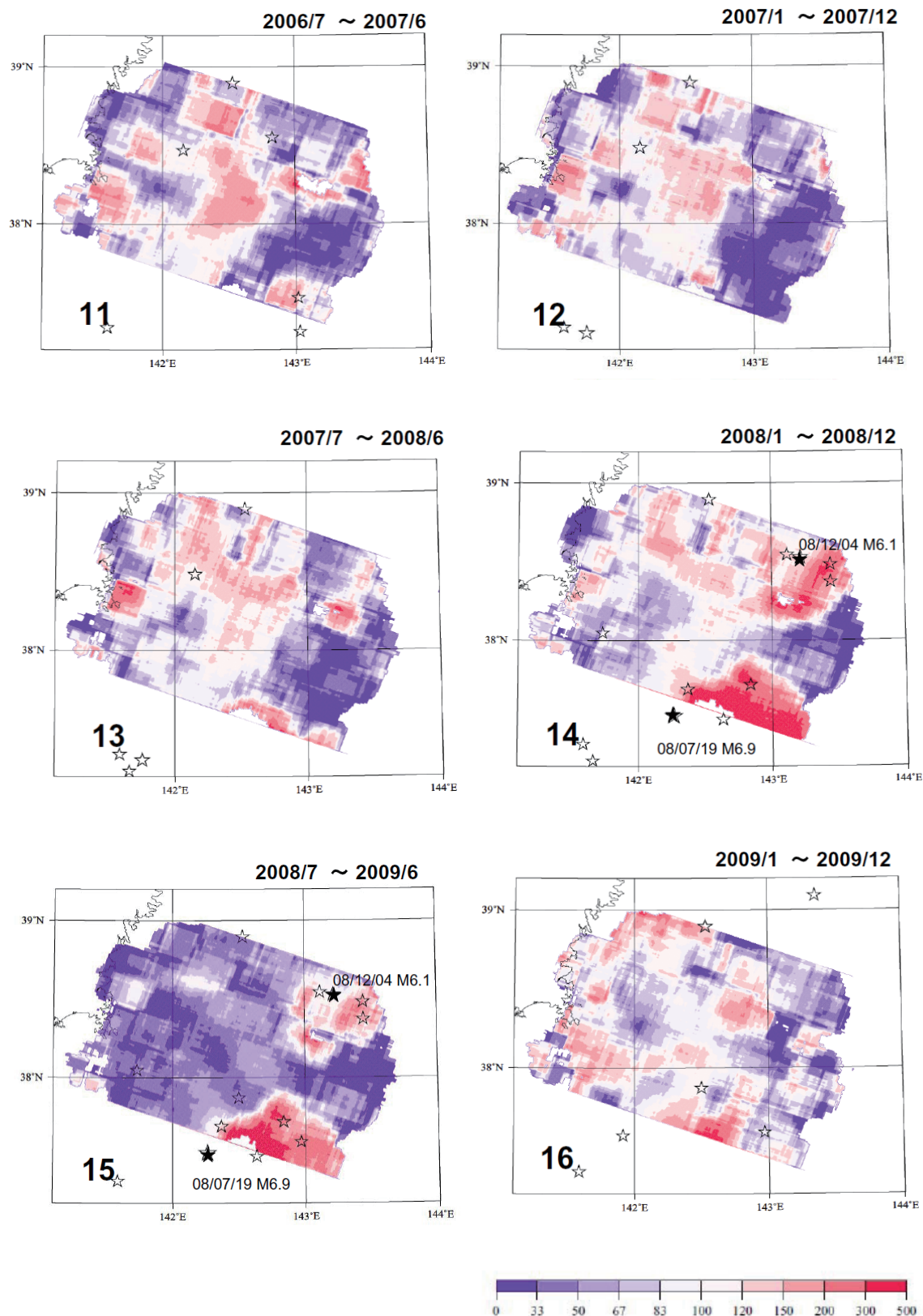
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

前報¹⁾に引き続き、宮城県沖の地震活動変化について報告する。第1図は、2009年12月までの活動度変化を示す。1年間を調査期間とした各ステージの図は、その前5年間の活動に対する地震発生率比をカラーグラデーションで示したものである。対象とする地震は、太平洋スラブ内二重地震面上面のM1.5以上とし、デクラスタリング処理を施している。白星、黒星は、それぞれのステージに起きたM5、及びM6以上の地震を示す。最新は第16ステージである。前15ステージと較べると、2005年8月16日宮城県沖地震(M7.2)の破壊域周辺部に再度、若干の活性化、すなわち応力集中が回復してきたように見える。

（松村正三）

参 考 文 献

- 1) 松村正三, 連絡会報, 83, 57-58, 2010.



第 1 図 地震活動変化（青：静穏化，赤：活性化）．デクラスタリング処理を施した M1.5 以上の地震に対して調査対象期間 1 年分の活動をその前 5 年分と比較している．白星，黒星は各ステージで起きた M5，及び M6 以上の地震．インデックスバーの数値はパーセント．

Fig.1 Color contours correspond to the seismic activity ratios between the focused period (one year) compared to the standard one (preceding five years). Open or solid stars are epicenters of M5 or M6 and greater earthquakes occurred in each stage. Numerals in the index-bar is percentages.